Koyo SSH news 2021 第６号

編集：SSH 推進部
発行日：R03.06.22

【SS 探究科学Ⅲ】ディベート３連戦！

環境科学科３年生「SS 探究科学Ⅲ」の授業では，毎年６月にディベートの成果発表会を行っています。ディベートは，ある論題（テーマ）について，肯定派と否定派が議論を繰り広げ，その議論を聞いていた第三者が審判となり，どちらがより説得力があるかを判定します。ディベート学習を通して，論題背景や発言内容等の理解力，発言内容を客観的に分析する力（批判的思考力），自らの考えを的確に効率よく伝える伝達力等が身に付きます。今年度は次のように，３つの論題でディベートに取り組み，様々な生徒が審判をしました。同じ教室にいる生徒だけでなく，別室にいる生徒も Zoom 中継で審判として参加しました。

当日は，非常に白熱した論戦が繰り広げられ，その様子は複数のメディアにも取り上げていただきました。

論 題	審 判
①和歌山は，カジノを含む統合型リゾート（IR）を誘致すべきである。是か非か。	向陽中学 ３年
②日本は，積極的安楽死を認めるべきである。是か非か。	普通科 ２年文系
③日本は，遺伝性難病に対しゲノム編集を含む遺伝子治療を積極的に導入すべきである。是か非か。	環境科学科 １年

別室にて，Zoom 中継で審判として参加する生徒たち

〈左〉「肯定派」の一員として、IR誘致のメリットを話す津田愛由美さん
〈右〉「否定派」のリーダーとして、IR誘致のデメリットを話す藪本快都さん
＝いずれも和歌山市太田の県立向陽高校

肯定派 VS. 否定派

IR誘致めぐり 高校生論戦

経済効果が期待される一方、治安悪化を心配する声が上がるなど、カジノを含む統合型リゾート（IR）誘致をめぐる賛否は様々だ。県立向陽高校の生徒が2日、県内へのIR誘致についてディベートし、「肯定派」「否定派」が真っ向から意見をぶつけ合った。

ディベートは、同校3年生の授業の一環。「和歌山県はIRを誘致すべきか」を議題に、「肯定派」「否定派」の各8人が、4月からそれぞれのメリット、デメリットについて調べ、準備してきたという。同じ敷地内にある向陽中学校の3年生ら113人が同席し、審判役を務めた。

まず、林亮太朗さん(17)がリーダーを務める肯定派は、県内の労働人口が減少していく中、IRを誘致することで雇用が増えると説明。「海外からの観光客を呼び込む起爆剤にもなる」とアピールした。

一方、藪本快都さん(18)率いる否定派は、IRができることでギャンブル依存症の人が増えたり、治安が悪化したりする恐れがあると指摘。南海トラフ地震のリスクにも触れ、「人的被害、経済的被害は計り知れない」とデメリットを強調した。

その後、双方は相手の主張について反対意見をぶつけた。否定派は、肯定派が挙げる「経済効果」について「コロナ禍で客がオンラインカジノに流れているようだが、収束後、客が戻ってくると言えるのか」と反論。肯定派は、否定派が唱えるギャンブル依存症の問題について「カジノに入場できる回数や、賭けられる金の上限を設けることで、対策できる」とした。

ディベート後、どちらの主張に納得できたか、審判役が判定した結果、肯定派50人、否定派63人で否定派が上回った。

否定派の藪本さんは「新型コロナや南海トラフなど、身近に感じられる話題でデメリットを示せたことが勝利につながった」と分析。肯定派の林さんは「今になって『こう言えばよかった』と後悔する部分もあるが、チームの全員が発言できたのでよかった」と話した。

（国方萌乃）

2021年６月２日 朝日新聞社

安楽死は認めるべきか
向陽高でディベート発表会

和歌山

向陽高校（和歌山市太田、前田成穂校長）で9日、「ディベート（討論）学習成果発表会」が開かれ、環境科学科3年生で「SS探究科学Ⅲ」を選択する生徒ら16人が「日本は、積極的安楽死を認めるべきである。是か非か。」をテーマに、肯定側・否定側に分かれて意見を交わした。

理論的な思考を身に付けるため毎年行われており、ことしは積極的安楽死の他、IR誘致や、ゲノム編集を含む遺伝子治療の積極的導入の是非を問う三つのテーマを掲げ、それぞれのチームが4月から発表会に向け準備を進めてきた。

この日、同校の普通科文系の2年生93人が審判役で参加。3年生30人も別室から中継でつながり、審判役を務めた。

審判役が見守る中、肯定側の生徒は「医療体制のひっ迫の解消」と「個人の意見の尊重・選択の自由」をメリットとして説明。否定側は「殺人との区別がつかない」といったデメリットの他、アメリカで大麻が合法化されたことにより大麻の使用率が上がったことを例に挙げ、「合法化は大麻に対する考え方を変えた」と指摘し、「積極的安楽死を認める法律ができれば、殺人に対する倫理観に影響を与える」などと伝えた。

作戦タイムを挟みながら相互討論や最終弁論を行い、肯定側は指摘されたデメリットに対し、「死刑制度のある日本での殺人数は少なく、積極的安楽死を認めても殺人に対する倫理観に悪影響するとは考えにくい」などと反論。審判役の生徒らによる挙手で判定した結果、肯定側が38人、否定側が36人で、肯定側がわずかに上回った。

肯定側で参加した浅見菜月さん（17）は「もっと反論に対する答えを用意しとけば良かった」と振り返り、否定側の竹本愛望（まなみ）さん（17）は「相手の意見をよく聞いて、素早く自分の中で整理して考える力は社会人になっても会議などで活用できるはず」と話した。

同校の坂本修一教諭は「一生懸命に取り組んだ生徒らの頑張りが伝わるディベートになっていた」と笑顔で講評した。

熱いディベートを繰り広げる生徒ら

この写真いごくで AR
「わかやま新報」と検索し、無料アプリをインストール。「AR」マークの写真にかざすと動画などが楽しめます。
※機種により動画再生されない場合があります。
※android2.3以前のOSについてはサポート外です。
App Store からダウンロード
Google play で手に入れよう

2021年６月13日 和歌山新報